AROUND THE WORLD 18

フランス：ことばと文化［4］

町田　健　Machida Ken（名古屋大学）

フランス人の特性

フランス人は，ケルト人の基盤の上にローマ人が覆い被さったものに，ゲルマン人が影響を与えることで形成された民族です。言語はイタリア人やスペイン人と同じラテン系なのですが，この両民族が陽気な性格で知られているのに対し，フランス人はそれほど陽気には見えません。

フランスの列車の車両は，在来線だと「コンパートメント」と呼ばれる，三人掛けの席が向かい合って，一つの部屋のようになっている区切りで構成されています。ですから，同じコンパートメントに乗り合わせると，たとえ向かい側の席でも，かなり密着した感じがします。この相手がフランス人だと，何時間一緒にいても，こちらに話しかけてくることはまずありません。こちらの方から適当な話題を持ち出して会話をしようとしても，無視されるわけではないのですが，簡単な返事をくれるだけで，会話がそこから発展することはあまりありません。イタリア人やスペイン人だと，もちろん相手にもよりますが，会話はそれなりに続きます。アメリカ人の旅行者ならば，大抵の人間が英語を話せるものと思い込んでいますから，こちらが関心を示さなくても，向こうの方から積極的に話しかけてくることは珍しくありません。

フランス人は，見知らぬ人間と積極的にコミュニケーションをとることには，それほど関心をもたない民族だと言えるでしょう。ですから初対面の時には，ずいぶんと冷淡な感じがします。ただ，何らかのきっかけで親しくなると，本当に心から大切にしてくれます。日本にいると，友人からの頼まれごとなど，面倒でやりたくないなあと思ってしまうこともよくあるのですが，フランス人の友人は，友人であれば当然のことだと，こちらの依頼はいやな顔一つせずにやってくれます。さらには，こちらが必要としていることをよく察してくれて，わざわざ頼まなくても助力を申し出てくれることもよくあります。世界に先駆けて市民社会を発展させ，個人の権利を優先しながらも，社会の利益を尊重するという考え方が，このようなフランス人の他人に対する接し方にも反映されているのだろうと思います。

フランスが，学問や芸術の分野で，世界に冠たる国だということはよく知られています。哲学や文学のような，あまり実用には役に立たないと思われている領域についても，フランス人は未だに高い関心を抱いています。日本語の文学作品や思想書のような外国の書物でも，代表的なものであれば大抵はフランス語に翻訳されていて，文庫に似た廉価な書籍の形で触れることができます。最近では，日本の漫画やアニメが，特に若者たちの間で非常に高い人気を博していることは，フランスも例外ではありません。こういう理由で，フランス人は日本に対して好意的な感情をもっているのが普通で，今後も両国は，特に文化の面で密接な交流を継続するでしょうし，それが世界にとって望ましいことは確かです。

表紙写真について

ハリー・ポッターの世界へようこそ！

竹内　理　Takeuchi Osamu　（関西大学）

左上の写真は，英国のオックスフォード大学（the University of Oxford）を構成するカレッジの1つ，トリニティ・カレッジ（Trinity College）の前庭と建物を写したものです。11世紀に創設された英語圏では最古の大学の1つオックスフォード大学には，38のカレッジ（と6つのホール）とよばれる学寮があり，学科（Department）と協力して教育に当たっています。カレッジは，それぞれ固有の財産を持った独立した私立大学のようなもので，オックスフォードの学生はすべてどこかのカレッジに属して勉学に励んでいます。トリニティは学生数の面では比較的小さな規模のカレッジ（約400名）ですが，1554年に創立された伝統ある学寮で，夏には芝生の緑がまぶしい広々とした敷地を持ちます。右下の写真は，その食堂（Dining Hall）です。ゲストや住込みの教員・学生はここで食事を取りますが，まさにそこはハリー・ポッターの映画に現れるホグワーツの世界です。重厚な作り，高い天井，見下ろす肖像画，どれをとっても見る人を圧倒します。

筆者は，教育学科（Department of Educational Studies）が主催した外国語学習ストラテジーの国際会議がここトリニティ・カレッジで開かれたために，数日間ゲストとして滞在しました。左上の写真は，良き思い出として，今でも筆者のコンピュータのデスクトップを飾る1枚となっています。ちなみに，ハリー・ポッターの映画は，オックスフォード大学のボドリアン図書館（Bodleian Libraries）や学寮の1つのクライストチャーチ（Christ Church）でも撮影が行われたようです。